

盛土-C-⑤

工法名
擁壁工法

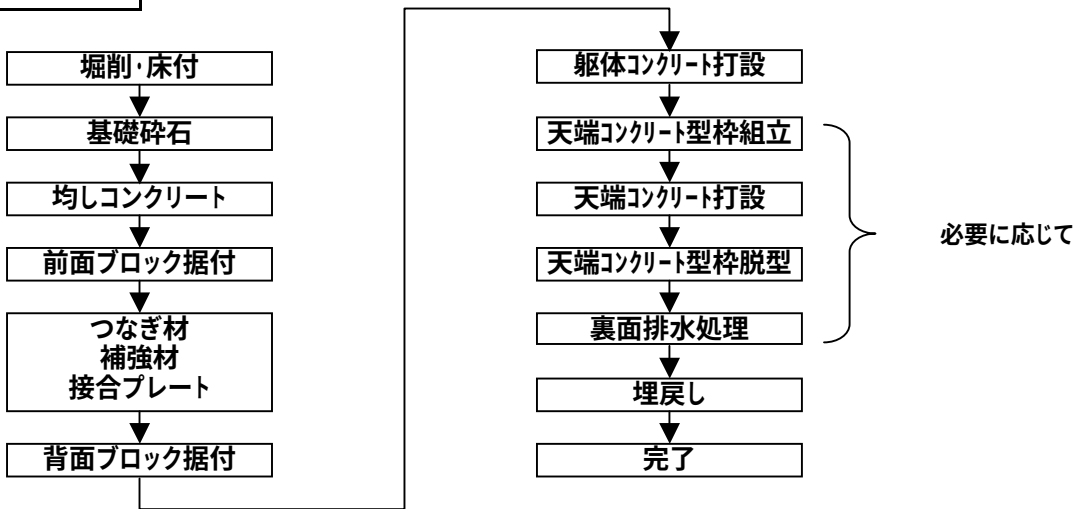
APG工法

構造物の概要・特徴

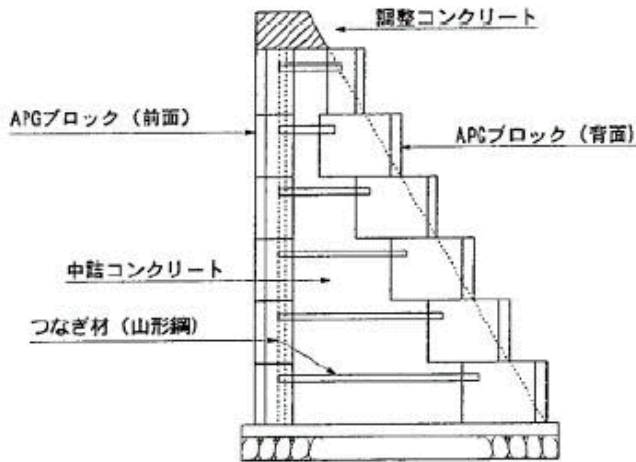
APG工法は、従来の木製型枠の代わりにプレキャストコンクリートブロックを型枠として組み立て、その内部にコンクリートを打設し一体として重力式擁壁を構築する工法である。特徴は、以下の通りである。
・木製型枠を全く使用しない工法のため、資源保護への貢献と建設廃棄物の発生を抑制する。
・RC廃材の再利用。打設するコンクリートにはコンクリートガラも使える。
・表面のカラー化やデザイン化は自由である。
・内部に足場を設ける。

構造物周辺状況

■施工フロー



■標準断面図



NETIS登録番号
CG-990047

参考文献	・APG工 (APG協会) (平成12年2月)
	・道路土工のり面工・斜面安定工指針 ((社) 日本道路協会) (平成11年3月)
	・道路土工地質調査指針 ((社) 日本道路協会) (昭和61年11月)

状況写真等

基礎施工状況



ブロック組立て状況



ガラ等敷設状況



完成状況



工法及び施工時の留意点・注意点	・ブロック組立時のレッカー車設置スペースが確保できること
	・岩砕ずりやコンクリートガラ等を粗骨材として流用する場合の最大粒径は300mm以下とすること
	・上記粗骨材は、事前に十分に吸水地・モルタルの流動性を確保すること
	・中詰コンクリートにプレパックドコンクリートを用いる場合は、流動性が高いため施工方法を十分に検討しておくこと
	・支持地盤は十分な強度を有し、また全体のすべりに対する安全が確保されていること
	・擁壁全面の根入れは、0.5m以上確保すること(土砂流れの恐れがある場合には1.0m以上とする)
	・地下水及び湧水対策が十分に行われること
	・現道拡幅において大きな背面カットが発生し現道交通に支障を与える場合には交通処理の方法を検討すること
	・最大壁高5m程度、前面勾配は垂直

盛土-C-⑥

工法名
擁壁工法

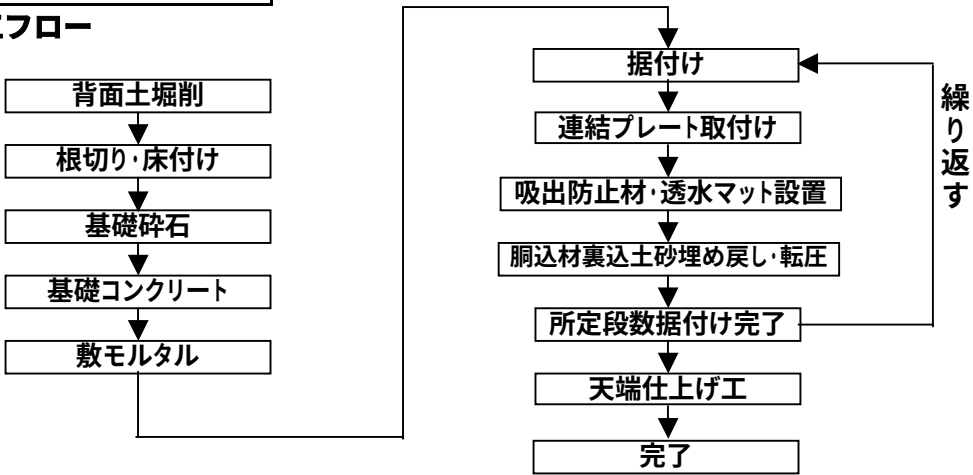
KBM工法

構造物の概要・特徴

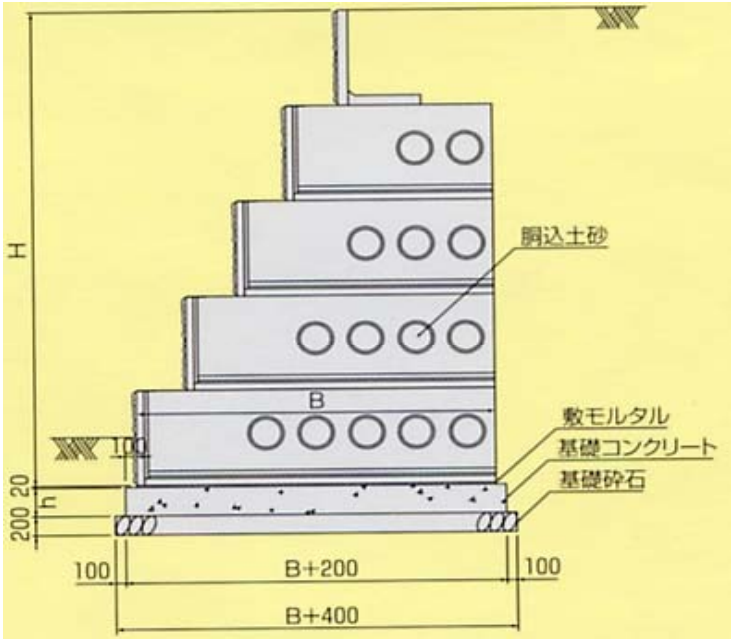
KBM工法とは、底版、前壁、控壁で構成される大型ブロック (2.0㎡) に胴込土砂を中詰することにより垂直に積み上げる大型ブロック積工法である。胴込土砂は入念に締固め擁壁として一体化する必要がある。特徴は、以下の通りである。
 ・底版長さの異なるブロックを組み合わせることにより現場条件に見合った擁壁が構築可能である。
 ・直壁タイプ (垂直) と緑化タイプ (1:0.5) の構築が可能である。

構造物周辺状況

■施工フロー



■標準断面図



NETIS登録番号

参考文献	・道路土工擁壁工指針 ((社) 日本道路協会) (平成11年3月)
	・道路土工土質調査指針 ((社) 日本道路協会) (昭和61年11月)

状 況 写 真 等

ブロック据付状況



胴込転圧状況



排水マット敷設状況



完成状況



工法及び施工時の留意点・注意点	・ブロック組立時のレッカー車設置スペースが確保できること
	・支持地盤及び背面地盤が十分な強度を有していること
	・擁壁全面の根入れは、0.5m以上確保すること (土砂流れの恐れがある場合には1.0m以上とする)
	・胴込土砂は入念に締固め一体化を図ること
	・地下水及び湧水対策が十分に行われること
	・現道拡幅において大きな背面カットが発生し現道交通に支障を与える場合には交通処理の方法を検討すること
	・周辺環境との整合性が図られていること
	・最大壁高5m程度、前面勾配 垂直～:1:0.5